

活動名		団体名	特定非営利活動法人 里山環境サポートセンター
安芸高田市向原町長田地区における通学路周辺の竹林の環境整備および放置された資源の活用		地域	広島県広島市
		代表者	代表理事 吉山 朋之
		支援金額	25 万円
活動概要	<p>竹林が長期にわたり放置され密生した竹ヤブとなり、通学路が昼間でも薄暗く見通しも悪くなり、平成 22 年秋女子児童暴行未遂事件が発生しました。通学路としても周辺住民の生活空間としても環境が悪化し、早急の環境改善が必要であると思われました。</p> <p>竹ヤブの中には枯竹・倒伏竹また伐採後放置された竹で足を踏み入れる事さえ困難な状況になっており、今回の事業では、道路法面周辺に密生する枯竹・倒伏竹および老齢竹を中心に、約 5m幅で約 200mにわたり伐採・整理伐を実施しました。伐採した竹は粉碎機によりチップ化し、搬出し資源として活用しました。竹チップは牧場で堆肥化し、チップ化できない竹は炭化し環境保全のための資材として活用し、表土・水質などの保全を図ります。また一部の竹チップは堆積し、カブトムシの繁殖を図りました。</p> <p>竹林の環境保全から地域さらには地球の環境保全へと繋がる活動になるものと思います。また、子ども会・自治会に整備活動に参加して貰う事により、子どもだけでなく大人の方にも環境保全の必要性を体験して貰い、不法投棄防止をはじめとして環境への配慮の意識付けへとつなげたいと思います</p> <p>◆実施時期 平成 24 年 5 月 16 日～6 月 20 日 安芸高田市向原町長田</p> <p>◆参加人数 竹林整備 6 名(延べ 24 名) 長田地区子ども会 7 名 自治会・父兄 4 名 マツダ財団 1 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:36 名</p>		



伐採された竹を皆で協力して竹ヤブから搬出。落葉で足元が滑るので気をつけながらの作業でした



作業後、見通しが良くなり明るくなりました



カブトムシのベッドづくり。来夏には、たくさんのカブトムシが出てきますように…



竹林整備をしながら、かつての里山の原風景について話を聞きました

◆実施に伴う効果

- ・当初の目的の通学路の見通しは、とりあえず改善されました。地域の住民の皆さんからも環境が明るくなったと感謝の言葉をいただきました。
- ・安芸高田市の環境グループ(環境もやい☆安芸高田)の勉強会で事例報告を行ない、環境問題としての竹林整備の取り組みを発表させて貰いました。自治会・行政・NPOとの協働事業としての里山・竹林の環境整備への足がかりとなることを期待しています。

◆苦勞した点

- ・今回の作業区域が、急峻な斜面で落葉もたくさん堆積し、足元が悪く滑って事故か起こらない様に特に注意しながらの作業になりました。また道路の要壁の下の作業で竹の搬出作業もかなりの重労働になりました。協力いただいた神乃倉山愛山会の皆さんに感謝します。
- ・作業を手伝ってもらった子ども会・地域の皆さんには、搬出・ゴミ拾い中心の作業をお願いしたため、内容にあまり興味を引き付けるものがなかったと感じました。来春のカブトムシの幼虫が発生する時期に、またこの様な機会が設定できれば、また関心を持って貰えるものと思います。
- ・空き缶をはじめ家庭ゴミ・粗大ゴミなどの大量の廃棄物が散乱し、ゴミの回収・搬出も竹林の整備以外に手間と時間を必要としたが、まだまだ大量のゴミが放置されています。ゴミの回収だけでなく処分にも地元の自治会に協力して貰いました。
- ・以前に伐採・放棄された竹が大量に堆積され、今回出来る範囲で搬出・処理を行ないましたが、大半の竹が未処理のまま竹林内に放置されています。この活動を足がかりに地域の住民の皆さんの協力で次の作業が実施出来ればと思います。
- ・問題発生から事業着手まで約1年半を経過してしまい、役員交代などで自治会の問題意識が低下し事業の実施に意欲が失われ、作業への協力が得難くなってしまいました。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・竹林の整備は伐採・棚積みと言う従来の作業方法では環境の保全にはならないと思います。竹ヤブの中に伐採した竹を放置したままでは、ゴミの廃棄を助長し、さらに竹ヤブ化を進めるだけであると思います。資源として利用を図る事により活動資金を獲得し、次の活動へとつながる様に展開していきたいと考えています。
- ・地元自治会、所有者だけでなく行政も含めた事業の展開を考えて行かなければ、竹林の整備は前へ進まないと思います。今回の整備では行政に協力を依頼しましたが、全く支援も協力も得られませんでした。今回の作業の実績で、行政にも竹林の整備に少しは関心を持って貰い次の整備へとつなげて行かなければと思います

◆活動を終えての感想・意見等

- ・竹林の整備は今回だけで終わりではありません。今回の活動をまた次の整備に繋げ、来年へさらにまた来年へと継続していく必要があります。その実施方法の提案になればと思いながらの活動を続けています。竹林をはじめとする里山はかけがえのない資源です。資源として活用する事によって里山の保全に繋がりたいと思います。